様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　5 月　29 日現在

機関番号：14301
研究種目：基礎研究(C)
研究期間：2008 年度　～　2012 年度
課題番号：２０５３０５６９
研究課題名（和文）　心理臨床場面における対話の構造

研究課題名（英文）　Structure of Dialog in Psychological Counseling

研究代表者
桑原　知子（　KUWABARA TOMOKO　）
京都大学・教育学研究科・教授
研究者番号：20205272

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は，熟練したカウンセラーが行う臨床対話の構造を、日常対話と比較しつつ、実証的に明らかにすることである。まず，臨床対話における沈黙の長さや身体動作の同調性の分析をおこなった。さらに、その結果をもとに、当事者の内観報告を対応づけて、心理臨床場面における対話の構造を分析した。結果として，話し手-聞き手間の共感的相互作用に関わるマクロ的時系列構造の一端が示された。また，カウンセラーの認知的枠組みに関する認知心理学的検討によって，カウンセラーによるミクロレベルの情報処理と共感性の特徴が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to clarify the structure of clinical dialog performed by expert counselors. When comparing clinical dialog with everyday speech, we found some typical features of silence, as well as physical movements during role-playing sessions performed by experts. Additionally, these results corresponded with introspective reports of participants, and we found macro-level sequential structures underlying empathic interactions between the speaker and the listener. Finally, from a cognitive psychological perspective, we examined the cognitive frameworks of several counselors who had different amounts of experience in order to clarify micro-level information processing features, as well as experts' empathetic characteristics.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：臨床対話，マクロ的構造，ダイナミクス，非言語的行動，定量的分析

１．研究開始当初の背景

対話は，言語・非言語行動による二者間のコミュニケーションであり，各自のもつ情報を相手に伝えることや，話題に対する感情や評価を相互に伝え合い共有することに加え，新しい問題解決法を思いつく，新たな自己認識・他者認識に至る，といった創造的・発見的な機能も有している。中でも，心理臨床面接における対話（以下，臨床対話と記す）は，自己認識や他者認識，問題解決法の発見等の機能を十全に発揮している例であり，大きな社会的影響を持つ重要かつ貴重な研究対象といえる。

本研究は，日常の対話と臨床対話との比較に主眼を置く。臨床対話が，日常の対話との比較においていかなる特徴を持ち,どのような社会的影響が作用しているかを明らかにすることは，社会心理学にとって意義のある貢献になると考えられる。

これまでの臨床対話研究では，質的なアプローチがほとんどであり，日常対話との厳密な比較や心理療法の学派による差異などについては，熟達したカウンセラーの個人的経験という形でしか知見が提供されてこなかった。そのため，臨床対話に対する定量的知見は不足している。

２．研究の目的

本研究は，社会心理学と認知心理学および臨床心理学のアプローチの融合によって，臨床対話の構造，およびそのダイナミクスを実証的に明らかにすることを目的とする。

著者らは，21 世紀 COE 京大心の総合的研究教育拠点の融合研究プロジェクトにおいて 3 年にわたり議論および予備的研究を積み重ねてきた。予備的研究の結果，対話の時系列的ダイナミズムの重要性（渡部・桑原・長岡・吉川 2006; 小森・前田・長岡 2007），および話し手-聞き手間の共感的相互作用の重要性が明らかになった（長岡・桑原・渡部・吉川 2007）。

本研究は，これらの研究成果を基礎として，知見をさらに発展させようとするものである。著者らのこれまでの検討結果に基づくと，以下の 2 つの観点から臨床対話の検証が有効であると考えられる。

(1) 臨床対話のマクロ的時系列構造

クライエント-カウンセラーの発話と沈黙の時間構造，身体動作の同調性などの行動的指標の特徴が聞き手-話し手の心理側面といかに関わっているかを定量的に明らかにする。

(2) ミクロレベルの情報処理のダイナミクス

熟達したカウンセラーは。クライエントが発する言葉（言語情報）のうち，いかなる内容に焦点を置いているか，すなわち，聞き手が継続的に行なう動的な情報処理過程を明らかにする。

３．研究の方法

本研究では，臨床対話と日常対話との比較，ならびに，熟達度の異なるカウンセラーによる臨床対話の比較や異なる学派による臨床対話の比較を行なった。

(1)対話のマクロ的時系列構造

対話を収録し，話し手と聞き手の非言語的行動を分析した。収録された対話は，初回面接のロールプレイ（通常の心理臨床面接と同じ 50 分間）という形で行なわれた心理臨床面接，および非臨床家による一般的な悩み相談の対話であった。心理臨床面接は，異なる 3 つの学派（認知行動療法, 来談者中心療法, 深層心理学）のカウンセラーによる面接であった。また，熟達度が異なるカウンセラーの協力を得た。

分析指標は，例えば，発話と沈黙の時間的構造，発話形式，瞬目，身体動作の同調性，視線方向，表情などであった。

さらに，クライエントとカウンセラーの発話内容に対する臨床心理学の熟達者による解釈，ならびにクライエントやカウンセラー本人にカウンセリング映像を見せながら報告させた内観報告も分析対象とした。上記の非言語行動の分析結果と時系列的に対応づけることにより，対話の進行に伴う心の動きについて検討するのが目的であった。

(2)ミクロレベルの情報処理のダイナミクス

カウンセラーのクライエント理解，すなわち，どのような情報を選択的に拾うか（重要視するか）を調べることを目的とした実験を行った。実験参加者は，経験のあるカウンセラー群と経験の浅いカウンセラー群と非臨床家群であった。実験参加者に，心理面接ビデオを視聴させ，その後で再生課題を課した。各群によって再生された内容の特徴を，クライエントが話した内容のうちどの要素を記憶するかという観点で比較した。

４．研究成果

(1) 対話のマクロ的時系列構造

一連の研究のうちの 1 つでは，発話冒頭の形式を分析指標とした。分析事例は，カウンセリング対話，一般的な悩み相談であった。各対話における聴き手の発話（話者交替によって挟まれる同一話者の音声の連続）を，(a)発話冒頭が話し手による質問に対する応答であるもの，(b)発話冒頭に相槌に似た短い表現があり，後に聴き手の発話が続くもの，(c)冒頭が笑い声であるもの，(d)その他，のいずれかに分類した。また音声分析により，(e)クラエイントの最も長いポーズを含む発話

を特定した。

結果，聴き手の応答に，群間の量的相違，および，カウンセリング対話に共通する時系列的パターンが認められた。また，聞き手の応答の特徴が明らかになった。さらにこの結果を，身体動作の同調性の分析結果に対応づけた。この結果，カウンセラーによるクライエント理解の深化やクライエントの変化などのプロセスに関係する，カウンセリング対話の特有の時間的構造について示唆が得られた。この内容は雑誌論文『認知科学』（下記の雑誌論文④）で報告された。

このほかの成果を，下記の雑誌論文②，学会発表④，⑤，⑦，⑧，⑨，⑩，⑪，⑫，図書②，③で報告した。

また他の研究では，クライエントとカウンセラーの発話内容に対する臨床心理学の熟達者による解釈，ならびにクライエントやカウンセラー本人にカウンセリング映像を見せながら報告させた内観報告も分析対象とした。上記の非言語的行動の分析結果への対応づけを行い，対話の進行についての理解を深めるためである。

結果から，非言語行動が変化するのと対応して，クライエントとカウンセラーに心理的変化が生じていることが示された。例えば，対話の中盤では，身体動作の同調性の程度が高く，またこのとき，クライエントとカウンセラーがともに，クライエントの感情に焦点を置いて話していたことが示された。また，身体動作の同調性が高い状態から下降し始めるのとほぼ同期して生じるクライエントの長い沈黙を経て，クライエントは内的に整理がついた状態に至るという望ましい変化が生じたことがうかがえた。こうした結果から，カウンセラーがクライエントの身体動作に同調性を示すことは，クライエントが自分の感情や考えに注意を向けて考えることができる環境をつくることに寄与している可能性が推測された。

さらに結果から，クライエントの心理的変化に関わるカウンセラーの技能，ならびに対話開始から約 20 分間における「受理」の伝達の役割について議論された。今後より大きなサンプルで検討されることにより，実践の場に応用可能な知見が得られると期待できる。この内容は雑誌論文『社会言語科学』（下記の雑誌論文③）で報告された。このほかの成果を，下記の学会発表②，③，⑥，図書①，②で報告した。

(2) ミクロレベルの情報処理のダイナミクス

カウンセラーのクライエント理解，すなわち，どのような情報を選択的に拾うかを調べることを目的とした実験を行った。実験参加者は，経験のあるカウンセラー群と経験の浅いカウンセラー群と非臨床家群であった。実験参加者に，心理面接ビデオを視聴させ，その後で再生課題を課した。再生された内容を次の 3 つにコーディングした：(I-1)クライエントの主訴に直接関係していて，専門的見立ての材料となる情報，(I-2)クライエントの主訴に直接関係しているが，専門的見立ての材料とならない情報，(II)クライエントの主訴と直接の関連を持たない情報。

結果，再生量は群間で有意に異なることが示された（図 1）。また，再生された内容も異なることが示された。経験のあるカウンセラーは，他の群の実験参加者よりも，(c) クライエントの主訴と直接の関連を持たない情報を多く再生することが示された。この結果は，クラエイント-カウンセラー関係性を構築し維持していくことと関連していると考察された。この成果は，学術雑誌 Psychologia（下記の雑誌論文①）で報告された。関連する内容は下記の学会発表①でも報告された。

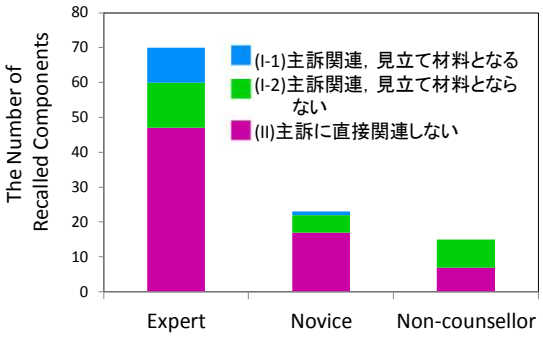

図 1　再生された量と内容

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① Nagaoka, C., Yoshikawa, S., Kuwabara, T., Oyama, Y., Watabe,M., Hatanaka, C., & Komori, M., A comparison of experienced counsellors, novice counsellors, and non-counsellors in memory of client-presented information during therapeutic interviews, Psychologia, (in press), 査読有

② Nagaoka, C., Kuwabara, T.,Yoshikawa, S., Watabe,M., Oyama, Y., Komori, M., & Hatanaka, C., Implication of silence in a Japanese psychotherapy context: a preliminary study using quantitative analysis of silence and

utterance of a therapist and a client, Asia Pacific Journal of Counselling and Psychotherapy, (in press) , 査読有, DOI:10.1080/21507686.2013.790831

③ 長岡千賀・小森政嗣・桑原知子・吉川左紀子・大山泰宏・渡部幹・畑中千紘, 心理臨床初回面接の進行—非言語行動と発話の臨床的意味の分析を通した予備的研究—, 社会言語科学, 14(9) 188-197, 2011, 査読有
http://ci.nii.ac.jp/naid/110009509349

④ 長岡千賀・小森政嗣, 心理面接におけるカウンセラーの応答：話者交替時のカウンセラーの発話冒頭を指標とした事例研究, 認知科学, 16(1), 24-38, 2009, 査読有
http://ci.nii.ac.jp/naid/10024935419

〔学会発表〕（計 12 件）

① Nagaoka, C., Yoshikawa, S., Kuwabara, T., Oyama, Y., Hatanaka, C., Watabe, M., Komori, M, A Comparison of Experienced, Novice Counselor and Non-counselor in Recall of Client-Presented Information in Therapeutic Interview. the 34th Annual Conference of the Cognitive Science Society (CogSci 2012), 2012 年 8 月 2 日, Sapporo

② 桑原知子・吉川左紀子・長岡千賀・渡部幹・西田眞也・野間俊一, ワークショップ：カウンセリング対話を科学する(5)－隣接領域からの批判的検討（企画：桑原知子）, 日本心理学会, 2011 年 9 月 17 日, 日本大学

③ 桑原知子・大山泰宏・畑中千紘, 心理療法で何がおこっているのか(3) －学派による違いに着目して, 心理臨床学会, 2011 年 9 月 4 日,福岡国際会議場

④ 吉川左紀子・桑原知子・小森政嗣・長岡千賀・渡部幹・神村栄一・菅原和孝, ワークショップ：カウンセリング対話を科学する(4)－学派による相違と共通性（企画：桑原知子）, 2010 年 9 月 21 日, 大阪大学

⑤ 長岡千賀・桑原知子・吉川左紀子・小森政嗣・渡部幹, 心理面接における話者理解に関する実証的検討(6)－話し手の視線時間を指標として－, 日本心理学会, 2010 年 9 月 22 日, 大阪大学

⑥ 桑原知子・大山泰宏・畑中千紘, 心理臨床で何が起こっているのか(2)－臨床家の意識と認知過程への着目, 日本心理臨床学会, 2010 年 9 月 5 日, 東北大学

⑦ 長岡千賀・桑原知子・吉川左紀子・渡部幹, 心理面接における話者理解に関する実証的検討(5)－発話と沈黙の時間的構造を指標として－, 日本心理学会, 2009 年 8 月 28 日, 立命館大学

⑧ 桑原知子・吉川左紀子・渡部幹・大山泰宏・長岡千賀・松見淳子・森岡正芳（企画：桑原知子）, ワークショップ：カウンセリング対話を科学する(3)—カウンセリングにおける専門性とは—（企画：桑原知子）, 日本心理学会, 2009 年 8 月 27 日, 立命館大学

⑨ 桑原知子・大山泰宏・大橋真季, 心理療法で何がおこっているのか(1)－非言語行動と言語行動の実証的分析-, 心理臨床学会, 2009 年 9 月 22 日, 東京国際フォーラム

⑩ 吉川左紀子・桑原知子・小森政嗣・長岡千賀・渡部幹・大山泰宏・仁平義明・木下冨雄, ワークショップ：カウンセリング対話を科学する(2)—言語表現と非言語行動—（企画：桑原知子）, 日本心理学会, 2008 年 9 月 19 日, 北海道大学

⑪ 長岡千賀・小森政嗣, 心理臨床面接における対話者の身体動作(1)—カウンセラーとクライエントの身体動作の相互影響過程—, 日本認知科学会, 2008 年 9 月 7 日, 同志社大学

⑫ 小森政嗣・長岡千賀, 心理臨床面接における対話者の身体動作(2)—再起定量化分析によるカウンセラーの身体動作の検討—, 日本認知科学会, 2008 年 9 月 7 日, 同志社大学

〔図書〕（計　3　件）

① 長岡千賀・吉川左紀子　ナカニシヤ出版, カウンセリング対話における「聴き方」（子安増生・杉本均編, 幸福感を紡ぐ人間関係と教育）　100-116, 2012

② 桑原知子　日本評論社, カウンセリングで何がおこっているのか　2010, 217 頁

③ 小森政嗣　音響情報の感性　日本認知心理学会監修, 三浦佳世編　現代の認知心理学　第 1 巻 知覚と感性, 北大路書房, 2010, 206-210

〔その他〕（計　0　件）

６．研究組織

(1)研究代表者

桑原　知子（KUWABARA TOMOKO）

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：2020572

(2)研究分担者

吉川　左紀子（YOSHIKAWA SAKIKO）

京都大学・こころの未来研究センター・教授

研究者番号：00293936

渡部　幹（WATABE MOTOKI）
早稲田大学・日米研究機構・研究員准教授
　研究者番号：40241286

小森　政嗣（KOMORI MASASHI）
大阪電気通信大学・情報工学部・教授
　研究者番号：60352019

大山　泰宏（OYAMA YASUHIRO）
京都大学・教育学研究科・准教授
　研究者番号：40158407

神村　栄一（KAMIMURA EIICHI）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
　研究者番号：80352019

長岡　千賀（NAGAOKA CHIKA）
京都大学・こころの未来研究センター・助教
　研究者番号：00609779

(3)連携研究者
　なし